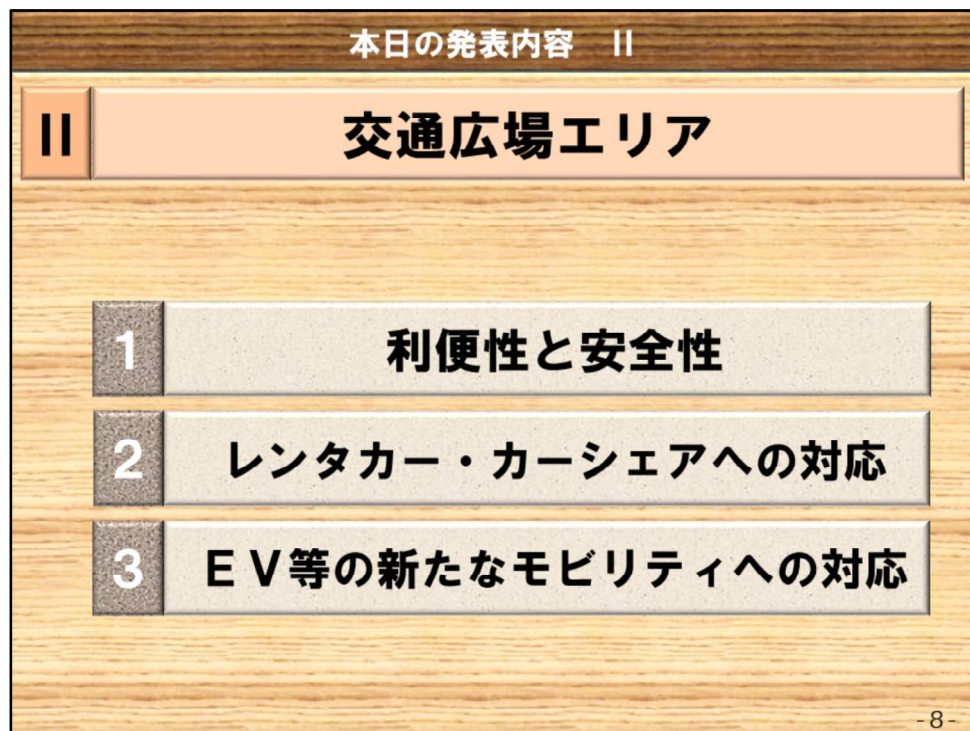




- テーマⅡでは、交通広場エリアに関して、三つの項目で説明します。
- まず、交通広場を利用される方への利便性と安全性について、
- 次に、今後需要の増加が見込まれるレンタカーやカーシェアへの対応について、
- 最後に、EV等の活用を想定した新たなモビリティへの対応、と以上3項目を説明します。

II 交通広場エリア（配置図）



- まずは、交通広場エリアについて、配置図で場所をご確認ください。
- 赤色の点線で表す北側交通広場は、自家用車、バス、タクシーなどを使ってリニア駅に来たときに、乗り降りしたり、待機したりする機能を持つエリアになります。
- 続いて赤色の点線で表す南側交通広場は、自家用車、タクシーなどを使ってリニア駅に来たときに、乗り降りする機能を持つエリアになります。

II 交通広場エリア（1 利便性と安全性①）		
1 利便性と安全性	意見要望	●リニアに乗る前や降りた後に、できる限りスムーズに自家用車やタクシー、バスに乗り降りできるようにして欲しい。 ●車の乗降場所や歩行者の通路について、歩行者の安全がしっかり確保できるようにして欲しい。
	対応方針	●乗降・駐車場所に関しては、高低差や移動距離等の観点を踏まえて、車椅子利用者や要配慮者を優先しながら、バス・タクシーや自家用車の利用者にとっても、利便性の高いエリアとなるよう整備する。 ●歩車分離を明確にし、横断歩道も見通しがきく等、子どもからお年寄りまで安全に利用できる交通広場を整備する。

- 「交通広場エリア」の利便性と安全性について説明します。
- 報告会などを通じて、
- 『リニアに乗る前や降りた後にできる限りスムーズに自家用車やタクシー、バスに乗り降りできるようにして欲しい』
- 『車の乗降場所や歩行者の通路について、歩行者の安全がしっかり確保できるようにして欲しい。』などのご意見をいただいております、これらを踏まえた対応として、
- 『乗降・駐車場所に関しては、高低差や移動距離等の観点を踏まえて、車椅子利用者や要配慮者を優先しながら、バス・タクシーや自家用車の利用者にとっても、利便性の高いエリアとなるよう整備する。』
- 『歩車分離を明確にし、横断歩道も見通しが利くなど、子どもからお年寄りまで安全に利用できる交通広場を整備する。』
- といった方針をもとに、このエリアの実施設計を進めました。



- 北側交通広場では、自家用車、タクシー、乗り合いバス、観光バス、高速バスなど、様々な手段でご利用される方、どなたにも対応できる機能を備えます。
- 自家用車乗降場の北側にある短時間駐車場には東西に車の転回スペースを設け、駐車しやすいレイアウトとしています。
- また、短時間駐車場内に福祉車両の駐車区画を4台分設けています。
- 続いて、バスやタクシー、自家用車から降りた後の人が歩くルートをお示しします。
- それぞれの乗降場から改札口や高架下空間に向かう歩行者のルートを、桃色の線で表しています。
- この歩行者のルートに木造（もくぞう）の大屋根が配置され、駅の改札口まで雨に濡れることなく、平坦な道を歩いていくことができる、天候バリアフリーが確保されています。



- 次に南側交通広場について説明します。
- ここでは、自家用車や福祉車両、タクシーで利用される方を想定しています。
- 南側のリニア駅前線から進入し、ロータリーを時計周りに1周して出入口に戻る形になります。
- ロータリーのタクシー利用者乗降場を過ぎて、改札口が一番近い場所に福祉車両の乗降場が配置され、その南側に自家用車の乗降場があります。
- 桃色の線は、自家用車やタクシー等のそれぞれの乗降場から歩く人のルートを表しています。
- こちら木造の大屋根を設け、乗降場から雨に濡れずに、高架下空間へ行けるように天候バリアフリーとなっています。

II 交通広場エリア（2 レンタカー・カーシェア等への対応①）		
2 レンタカー・カーシェア等への対応	意見要望	●観光面やビジネス面からは、公共交通機関だけでなく、レンタカーやカーシェアリングでの移動も想定すべき。 ●これらを使い勝手よく利用できるようなスペースの確保と運用を考えて欲しい。
	対応方針	●需要増が見込まれるレンタカー・カーシェア等についてはリニア駅前空間内に新たなスペースの確保を検討する。 ●リニア駅の高架下空間内でのコンシェルジュ機能の拡充等を検討しながら、利便性の高い運用を目指す。

- 13 -

- 続いて、「交通広場エリア」の「レンタカーやカーシェア等への対応」について説明します。
- 報告会などを通じて、
- 『観光面やビジネス面からは、公共交通機関だけでなく、レンタカーやカーシェアリングでの移動も想定すべき。』
- 『これらを使い勝手よく利用できるようなスペースの確保と運用を考えて欲しい。』などのご意見をいただいております、これらを踏まえた対応として、
- 『需要増が見込まれるレンタカー・カーシェア等についてはリニア駅前空間内に新たなスペースの確保を検討する。』
- 『リニア駅の高架下空間内でのコンシェルジュ機能の拡充等を検討しながら、利便性の高い運用を目指す。』
- といった方針をもとに、このエリアの実施設計を進めました。



●モビリティに関する技術革新のスピードを考えると、むしろ常に変化が起きていくことが当たり前であると考えられます。

●リニア駅前空間にも、こうした将来の変化に柔軟に対応できるような可変性を備えることが求められます。

●リニアで来訪された方が、レンタカーや現在普及が加速しているカーシェアリングで移動する状況が増えていくことも想定され、こうした状況に柔軟に対応できるように、

●地下式調整池の上部をレンタカー・カーシェアリングなどのスペースとしたいと考えています。

●予約機能を利用して、レンタカーやカーシェアリングなどを活用する場合に、この場所からスムーズな乗り継ぎを行うことができます。

●また、交通広場内の短時間駐車場に確保している福祉車両専用の駐車場も、現在の計画では2か所の道路横断が必要になりますが、この場所に移行すれば平坦かつ直線的に移動でき、木造の大屋根を架けることで天候バリアフリーにもなります。



- 現段階ではあくまで仮定に過ぎませんが、今の内容をイメージしたものを図としてお示しするとこのようになります。
- この図は、まだ(案)の段階ですが、警察等関係機関との協議を重ねていきたいと思ひます。

II 交通広場エリア（3 EV等新たなモビリティへの対応①）		
3 EV等の新たなモビリティへの対応	意見要望	●環境や防災のことも考えると電気自動車（EV）への対応を充実しておくべきだと思う。 ●今後様々な新しいモビリティの登場が予想されるので、使い方や場面を想定して、柔軟な対応ができるようにして欲しい。
	対応方針	●EV普及への対応や、災害時におけるEVの活用を想定し、EVステーションや蓄電池設備等の設置を検討する。 ●北側交通広場内のバスの駐車場利用を中心に想定しているエリア（多目的空間）については、次世代モビリティの普及等による将来の変化にも対応できる整備とする。

- 続いて、「交通広場エリア」の「EV等新たなモビリティへの対応」について説明します。
- 報告会などを通じて、
- 『環境や防災のことも考えると電気自動車（EV）への対応を充実しておくべきだと思う。』
- 『今後様々な新しいモビリティの登場が予想されるので、使い方や場面を想定して、柔軟な対応ができるようにして欲しい。』などのご意見をいただいております、これらを踏まえた対応として、
- 『EV普及への対応や、災害時におけるEVの活用を想定し、EVステーションや蓄電池設備等の設置を検討する。』
- 『北側交通広場内のバスの駐車場利用を中心に想定しているエリア（多目的空間）については、次世代モビリティの普及等による将来の変化にも対応できる整備とする。』
- といった方針をもとに、このエリアの実施設計を進めました。



●EV等への対応として、EV自動車の充電ステーションをできれば3箇所程度設置したいと考えています。

●まず、北側駐車場①の南西には、送られてくる電気の電圧を下げるための受変電設備であるキュービクルや、大容量の充電が可能な蓄電池の設置を想定している、機械室付近に検討しています。機械室付近に設置することで、ステーションへの配電も容易となります。

●続いて、北側駐車場②の南東側です。こちらについては、将来のEVの需要が高まった際の充電施設の増設場所として検討しています。

●最後に、バス待機所である交通広場内の北側に位置する多目的空間内の西側です。こちらについては、EVバスに対応したステーションの設置を検討しています。

●また、今後の状況を見据えて、水素などのクリーンエネルギーを供給するエコ・ステーションの必要性もあわせて検討を進めていきます。



- 5月の第1回報告会で、二次交通の説明の際に触れた、
- 立ったままで乗車する「電動キックボード」や、
- 座って乗車する「原動機付き歩行補助車」、
- さらにはコンパクトで小回りが利き、遠隔操作の自動運転の実証実験が行われている「超小型モビリティ」、
- 手荷物を積載可能な「小型自動運転バス」、
- 需要に応じて輸送力を調整できる「グリーンスローモビリティ」等の新たなモビリティの利用を想定し、
- 交通広場内の北側に位置する多目的空間とその西側に隣接する北側駐車場②のエリアの一部を、そのためのスペースとすることも考えています。
- これらの新モビリティは電動が中心であることから、EVステーションの設置により、こうした用途にも対応できるものと考えます。